



Test Services

リリースノート

注意

文書情報

文書番号 D0038064ja

2024年1月

著作権

© Agilent Technologies, Inc. 2024

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

Agilent Technologies, Inc.
5301 Stevens Creek Blvd.
Santa Clara, CA 95051
USA

ソフトウェアリビジョン

このガイドは改訂版が発行されるまで QualA/Test Services のバージョン 3.6 に対応します。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

米国政府の制限付き権利について: 連邦政府に付与されるソフトウェアおよび技術データに係る権利は、エンドユーザーのお客様に通例提供されている権利に限定されています。Agilent は、ソフトウェアおよび技術データに係る通例の本商用ライセンスを、FAR 12.211 (Technical Data) および 12.212 (Computer Software)、並びに、国防総省に対しては、DFARS 252.227-7015 (Technical Data - Commercial Items) および DFARS 227.7202-3 (Rights in Commercial Computer Software or Computer Software Documentation) の規定に従い提供します。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、注意を無視して先に進んではなりません。

目次

| | | |
|---|-----------|---|
| 1 | はじめに | 4 |
| | バージョン 3.6 | 5 |
| | バージョン 3.5 | 6 |
| | バージョン 3.4 | 8 |
| | バージョン 3.3 | 9 |



1 はじめに

本書では、QualA/Test Services ソフトウェアの各リリースの主な変更点を記載しています。

既知の問題および回避方法に関する情報も記載しています。

バージョン 3.6

互換性について

Test Services バージョン 3.6 は、OpenLab CDS バージョン 2.8 および対応するストレージシステムと互換性があります。Test Services がサポートされるのは、Windows OS の英語版、中国語版、日本語版、およびブラジルポルトガル語版のみです。

新機能と変更点

- ユーザーインターフェイスとドキュメントの「QualA」という語句を「Test Services」に置き換えました。ただし、ライセンス名は変更していません。
- Secure Storage バックエンドで、ストレージシステム検査が動作するようにアップデートしました。
- アドホックテストやテストスケジュールを実行するためのサービスアカウントユーザーや資格情報を、管理者が設定できます。資格情報が設定されると、いずれのユーザーがテストを開始しても、指定の資格情報を用いてテストが実行されるようになります。
- 時刻同期の情報を、システムレポートに追加しました。
- 日時やタイムゾーンを変更できるユーザー情報を、システムレポートに追加しました。
- デフォルトのウィルス対策アプリケーション情報を、システムレポートに追加しました。
- ウィルス対策アプリケーションが非アクティブまたは未更新状態かどうかを示すため、「合格（特記事項あり）」の表示をシステムレポートテストに追加しました。
- 「削除」権限が、ワークフロー検査に不要となりました。
- 「メソッドをオーバーライドするパラメータの編集」権限がワークフロー検査に必要となります。
- 9092 ポートを Test Services に使用しないことになりました。代わりに、52088 共有ポートを使用することになります。
- Test Services の Web サーバーポート番号を変更するために、*Agilent.TestServices.ConfigTools.exe* を使用していましたが、不要になりインストールされません。
- さまざまな不都合を修正しました。

バージョン 3.5

互換性について

QualA/Test Services バージョン 3.5 は、OpenLab CDS バージョン 2.7 および対応するストレージシステムと互換性があります。

新機能と変更点

- 「利用可能なテスト」ページの構成が変更されました。QualA ライセンスが必要なテストと不要なテストが分かれて表示されます。
- セキュリティ、ストレージ、およびワークフローテストに必要な権限が更新されて、新しい「アクティビティログの表示」権限に含まれました。
- アクティビティログおよび監査証跡の検証にフルネームとユーザー ID が表示されるようになりました。
- サービスのスタートアップの種類が「自動」から「自動（遅延開始）」に変更されました。
- ポート 443 で設定されるリバースプロキシをサポートするよう、Test Services の URL が変更されました。
 - `https://localhost/testservices/` (AIC、サーバー、WS、WS+)
 - `https://localhost:9092/testservices/` (クライアント)
 - 注記：Test Services のデフォルトポート (9092) を変更するには、『Test Services 管理ガイド』の「ポート番号の変更」セクションに記載された説明に従ってください。AIC、サーバー、WS、および WS+ にある “C:\Program Files\OpenLab Reverse Proxy\Apache24\conf\httpd.conf” ファイルに含まれる文字列 “`https://localhost:9092`” をすべて次の文字列 “`https://localhost:XXXX`” に置き換えてください (XXXX は新しいポート番号)。
- セキュリティテストの更新
 - ロックアウトメカニズムによりパスワードのテストセクションを強化
- テストが中断された場合、テストを中断したユーザーをサマリーレポートで確認できるようになりました。

リリースノート

既知の問題

- 設定された SMTP サーバーがユーザー名とパスワードによる認証を必要とする場合に、電子メールの通知が送信されないという既知の問題があります。

バージョン 3.4

QualA バージョン 3.4 は、OpenLab CDS バージョン 2.6 および対応するストレージシステムと互換性があります。

新機能

- QualA フレームワークの名称が Test Services に変更されました。ライセンスが必要なテスト用の QualA ライセンスに変更はありません。製品の基本的な使用方法に変更はありません。
- Test Services は、OpenLab CDS 2.6 および OpenLab Server/ECM XT 2.6 ソフトウェアと共にデフォルトでインストールされます。OpenLab CDS 2.6 には CDS プラグインも含まれます。プラグインの個別インストールは不要になりました。
 - QualA ライセンスは、OpenLab CDS Workstation Plus に含まれています。その他のシステムの場合、ライセンスが必要なテストを実行するには、QualA ライセンスを購入してインストールする必要があります。
 - 『Test Services 管理ガイド』および『ユーザーガイド』は、OpenLab CDS 2.6 および OpenLab Server/ECM XT 2.6 インストールメディアの \Setup\Docs にあります。
- スケジュール機能の更新
 - スケジュールするタスクに終了日を指定できるようになりました。
 - スケジュールされたタスクに 3 つ目のステータス：期限切れ（スケジュールされたタスクの期限が切れて無効）が追加されました。
- 通知機能の更新
 - エラーや警告に関する通知を直ちに送信できるようになりました。
 - 直ちに送信する通知の回数には上限を設定できます。
- Test Services は安全な https による通信を既定で使用します。
- ワークフローテストの更新
 - シーケンスの編集に関する監査証跡が検証されます。
- Test Services はクラスターシステムでサポートされます。

バージョン 3.3

互換性について

QualA バージョン 3.3 は、OpenLab CDS バージョン 2.5 および対応するストレージシステムと互換性があります。

新機能

- ファイルベースのワークステーションのサポートを追加
- OpenLab ストレージシステム検査を追加
 - この検査では、ファイルおよびフォルダーの操作、チェックイン/チェックアウト、署名の機能を検証し、コンフィグレーションされたストレージシステムの権限をチェックします。
 - ストレージシステムとして、OpenLab Server、OpenLab ECM XT、OpenLab ECM、およびローカルファイルシステムをサポートします。
- QualA テストのスケジュール機能を追加
 - QualA でテストがスケジュールできるようになりました。設定するとマシンでテストが自動的に実行されます。
- QualA テストの通知機能を追加
 - QualA にサマリーレポートの送信を設定すると、テストの実行後に電子メールでサマリーレポートを送信できます。

本書の内容

本書では Agilent QualA/Test Services ソフトウェアの各リリースの主な変更点を記載しています。

www.agilent.com

© Agilent Technologies, Inc. 2024

エディション 2024年1月

文書番号 D0038064ja

